

11/19(金)「2021年度2Q決算および通期予想 IR 電話会議」説明要旨

- 皆様、本日はありがとうございます。IRグループの石黒です。
- これより、本日発表いたしました、東京海上ホールディングス株式会社の「21年度第2四半期決算および通期業績予想」に係る、電話会議を始めさせていただきます。
- グループ CEO の小宮とグループ CFO の湯浅より、当社の業績見通しや足元の事業環境認識、資本政策等についてご説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

1. 小宮 CEO プレゼン(2,150文字、8分)

- 皆様、こんばんは。小宮でございます。本日はお忙しいところ、ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃より当社をご支援いただき、感謝申し上げます。
- まず私から、「今回の決算内容」と「これらを踏まえました、経営からのメッセージ」につき、ご説明させていただきます。

【Key messages】

- それでは、資料の3ページをお開き下さい。本日特にお伝えしたいポイントについて、3点、まとめております。
- まず申し上げたいのは、これまで当社は、リスクをグローバルに分散させると共に、海外の高い成長も取り込む。そういう戦略を立てて、実行してまいりまして、そして同時に、グローバル保険会社として、国内・海外、グループ・グローバルの人材の英知と熱意を集約することで、いわゆる「グループ経営の力」を育て、高めてきた訳ですが、足元で、この結果が本格的に出始めてきているということをご報告申し上げたいと思います。
- 具体的に申し上げますと、1点目。修正純利益の第2四半期末実績は「3,181億円」と、対前年170%となっています。また、年初予想対比の進捗率は75%と、過去5年平均との対比でもかなり高い方で、一言で言えば「好調」と申し上げてよろしいかと思っております。
- そして、2点目ですが、こうした事業の足元の基調を踏まえまして、2021年度の通期予想を、今般、+660億円上方修正し、4,900億円とさせていただきますと思います。
- また、当社が中長期ターゲットと定義してきました「修正純利益 5,000億円超」「修正 ROE: 12%程度」については、これまで、今年度スタートした現中期経営計画、この3か年の間に、達成を視野に入れている、とご説明してきた訳ですが、2023年度の見込みも上振れをし、2023年度には、修正純利益は5,000億円を、優に突破するのではないかと考えています。
- そして、こうした私共の事業の「強い利益成長」と、「株主の皆さまへの還元」は当然に整合的であってしかるべきと考えておりまして、今般、配当性向50%への引上げ時期についても、2023年度に前倒すことといたしました。
- そして、この判断を踏まえまして、2021年度の配当性向も、年初予想の43%を、今般47%に引上げ、DPSを年初予想対比では+30円の増配、前年度対比では+45円の増配となる、245円とすることを決定いたしました。
- 現中計期間中については、「利益成長」と「配当性向の引上げ」という2つのドライバーでもって、株主の皆さまに、リターンを拡大していくつもりです。
- それでは、これらのポイントを、もう少しだけ詳細にご説明していきたいと思っております。4ページを

ご覧ください。

【トップライン(2Q実績・通期予想)】

- 先ず、トップラインです。
- 第2四半期末の実績ですが、「正味収入保険料」は前年同期比+4.5%の増収、「生命保険料」は前年同期比+0.6%の増収となりました。いずれも、年初予想のペースを上回るもので、「好調」でございます。
- 従って、この基調を反映して、今般、通期予想を上方修正したいと思います。
具体的には、左の「正味収入保険料」は前年度対比+3.8%の増収、右の「生命保険料」もご覧の通り、上方に修正します。
- 次に、修正純利益についてご説明しますので、5ページをお開きください。

【修正純利益(2Q実績)】

- 「第2四半期末実績が、3,181億円であること」、これが「年初予想に対して進捗率75%と、過去5年平均との対比でもかなり高い方であること」は、先ほどご説明いたしましたが、その内訳を見てみますと、国内の東京海上日動は、トップラインが好調であり、一方で発生保険金もコロナの影響や自然災害の減少を主因に下振れており、過去5年平均の第2四半期進捗率は29.8%であるところを、足元94.8%、という数字になっております。
- また海外は、テキサス寒波の影響はありましたが、保険引受・資産運用いずれも好調でありまして、それをはね返し、計画を大幅に上回る進捗となっております。北米主要拠点の第2四半期末の実績も、計画対比+250億円と好調です。
- 続きまして、これらを踏まえました、通期予想の上方修正について、ご説明しますので、6ページをご覧ください。

【修正純利益(通期予想)】

- 「今般、通期予想を+660億円上方修正し、4,900億円としました」ことは、先ほどご説明の通りですが、内訳を見てみますと、ブルーの国内の東京海上日動は、記載の通りの保険引受利益の拡大を見込み、+370億円上方修正しています。
そして、その際の下期の自然災害ファンドの前提は、税前で約300億円としています。
- 次に、オレンジの海外ですが、下期に発生しましたハリケーンIdaといった自然災害の影響があるものの、総じて保険引受・資産運用ともに好調なことから、これを+350億円、上方に修正することにしたいと思います。
- この様に、これまで掲げてきた戦略とその実行の成果がようやく本格的に表れてきており、足元の実力を踏まえますと、2023年度の修正純利益は、5,000億円は優に突破できるのではないか、と見込んでおります。
経営としましては、より一層気を引き締めまして、今年度もその先も、グループ利益とROEを引上げていきたいと考えていますし、その辺りはまた来週のIR説明会でご説明させていただきます。
- 私からのご説明は以上です。

2. 湯浅 CFO プレゼン(1,250 文字、5 分)

【株主還元】

- CFO の湯浅でございます。最後に、株主還元についてご説明させていただきますので、7 ページをお開き下さい。
- 当社の株主還元の基本は配当で、利益成長に応じて持続的に高めていくというものです。
- その中で、これまで当社は、
「中長期的ターゲットであります、修正純利益 5,000 億円超、修正 ROE:12%程度を実現できた時点で、配当性向をグローバルピア並みの 50%とする。」
と申し上げてきましたが、その時期につきまは、「安定的にターゲットを実現できる時」としており、不明確な状況にありました。
- 先ほど小宮からご説明の通り、当社は、中長期ターゲットの実現に向けて、経営・事業戦略を実行してきた訳ですが、今般の 2021 年度利益の上方修正が示しています通り、当社実力は確実に高まってきています。
- そして、今年 5 月には「2023 年度の修正純利益は、5,000 億円超を視野に入れている」と申し上げた訳ですが、足元経営としましては、想定外のことがない限り、確実に達成でき、その後も安定的に上回るできると確信しています。
- この様な認識のもと、従来不明確でありました、「配当性向 50%の実現時期」を、「修正純利益 5,000 円超が達成できると見込まれる時期」、即ち現在の計画では「2023 年度に」「前倒す」とし、「透明性の向上を図る」とします。
- そして、この前倒し判断を踏まえまして、2021 年度の配当性向も、年初の 43%から今般 47%に引上げ、DPS を年初予想対比+30 円増配、前年度対比+45 円増配となる、245 円とすることを決定いたしました。
- なお、当社は 2023 年度以降の利益成長にも自信を持っており、配当性向を 50%にした以降は、利益成長をドライバーに DPS を上げていくつもりですし、原則減配はしない方針です。
- 次に資本水準調整ですが、当社は今年 5 月に、
「2021 年度は 1,000 億円を、ボルトオン M&A の実行も含めて、機動的に実行する」と申し上げ、実際に 6 月に 300 億円、9 月にも 300 億円の自己株取得を公表し、ここまで 600 億円を実行してきました。
- そして、2021 年度の残り 400 億円については、お約束通り実行していくことに変わりはなく、公表のタイミングについては、機動的に判断していくつもりです。
- なお、現時点におきまして、この 400 億円から控除するボルトオン M&A の実行は見込んでおりません。
- これまで当社は、中長期目線で、創出した資本を事業投資に活用し、成長を実現すると共に、余剰となった資本は規律をもって株主還元を行ってまいりました。今後も利益成長と ROE 向上を図るべく、資本政策を実行していく所存です。
- このような観点から、2021 年度に導入しました新方式は、当社の「資本水準調整はやるのか、やらないのかではなく、やるのだ」という意思を示したつもりでありましたが、株式市場の皆さまから、多くの意見をいただく結果となりました。

- 従いまして、2022年度は、皆さまから評価いただけるような内容に改めたいと考えています。
- 当社といたしましては、経営戦略を着実に実行しながら、まずは中長期ターゲットを実現していく、そして、資本市場の皆さまの期待に応えていきたい、この様に考えていますので、引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。
- 私からのご説明は以上です。

以 上